

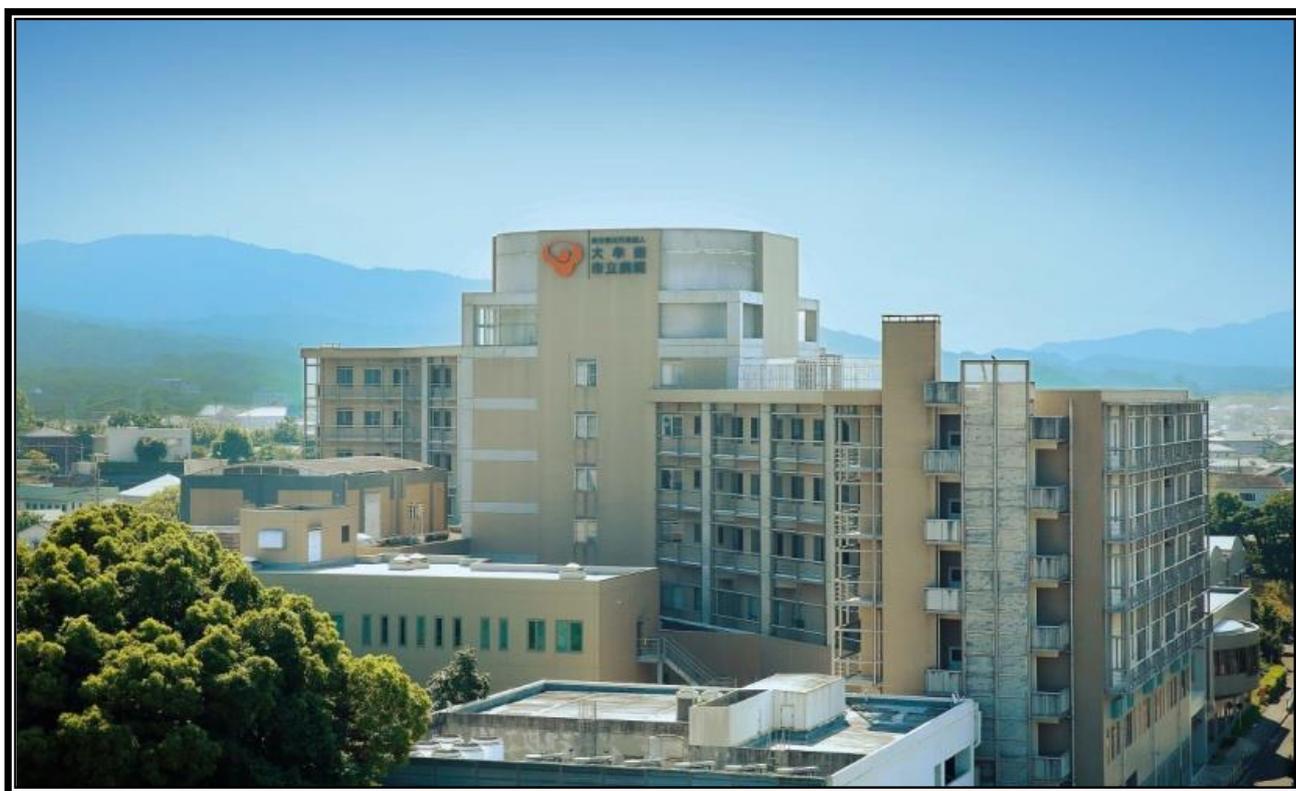


地方独立行政法人

大牟田市立病院

令和4年度採用

初期臨床研修医募集要項



目次

1. 臨床研修を始める皆さんに・・・・・・・・・・P1
2. 診療体制・実績・・・・・・・・・・P2
3. 施設・・・・・・・・・・P5
4. 沿革・・・・・・・・・・P6
5. 地域医療への貢献・・・・・・・・・・P7
6. 初期臨床研修について・・・・・・・・・・P9
7. 指導医からのメッセージ・・・・・・・・・・P13
8. 研修医の声・・・・・・・・・・P14
9. 研修中の行事例・・・・・・・・・・P21
10. 募集要項と処遇・・・・・・・・・・P22
11. アクセス・・・・・・・・・・P23

1. 臨床研修を始める皆さんに



当院は、1985年に医師法第16条に基づく臨床研修病院として厚生大臣指定を受け、その後は、一貫して研修医～専門指導医のペアで、実地臨床研修を行ってきました。現在も当院医師の半数が専門科指導医資格を有しています。さらに現行の初期臨床研修制度に移行した後も卒後初期研修のほか、専門科入局～卒後5年目程までの若い医師が大勢勤務しています。このため異なる診療科間でも全く垣根が無く、常に幅広い研修が行えるのが当院の特徴と言えます。

医師にとって「病院」で初期研修を行う目的の一つは、色々な職種のスタッフとチームを組んで、あるいは協働して医療を行うというトレーニングにあります。他職種の専門分野を理解し、どういう援助が求められるか、そして協働した医療行為には互いのコミュニケーションが如何に重要か、学ぶことは数多くあります。プロは、プロによって、プロとして育てられるのが、最良の方法と言えます。

二つ目の研修目的は、経験と判断力を積み上げていくことです。経験と学習に裏付けられた判断力こそ、医療現場の即戦力となるものです。しかし、慌てる必要はありません。特に最初の2年間は、専門医師になるための助走期間ととらえてください。基本的な分野で研鑽を積み、基礎固めを行うことこそ、長い医師生活を送っていく上で最も重要なこととなります。そのためには、プライマリー疾患を多く経験すると同時に、単なる診断・治療ではなく、一つ一つの診療行為の持つ意味、すなわちリスクと効果を応用出来るようになることが重要です。

地域基幹研修病院には、基本的疾患の豊富な経験、良い指導医に巡り会うチャンス、プロとして育てられる厳しさ、そして何よりも研修医個人の向上心を持続させる教育的な包容力が備わっています。ぜひ、この体制を十分に活用して、初期の臨床研修先を選択ください。

地方独立行政法人大牟田市立病院
理事長・院長 野口 和典

2. 大牟田市立病院の診療体制・実績

高度で専門的な医療を提供する地域の急性期病院です。

特に、

☆地域がん診療連携拠点病院

☆災害拠点病院

☆地域医療支援病院

であり、地域のくらしを支えている病院です。

【病床数】 320床（一般病床）

（ 救急病棟20床、腎センター（透析）18床、
外来化学療法センター8床 ）

【診療体制】（令和3年4月1日現在） 30診療科

内科、消化器内科、内視鏡内科、腫瘍内科、血液内科、内分泌・代謝内科、
循環器内科、腎臓内科、外科、消化器外科、腫瘍外科、呼吸器外科、
血管外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、脳・血管内科、麻酔科、
精神科、小児科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、
リハビリテーション科、放射線診断科、放射線治療科、病理診断科、救急科

【救急体制】 24時間、365日体制です

当直体制：救急系、内科系、外科系、薬剤師、臨床検査技師、診療放射線技師、
看護師、小児科（週2回の地域輪番救急当直）※すべて専用当直室あり
拘束バックアップ：内科、外科、循環器内科、産婦人科、脳神経外科、麻酔科、小児科

【職員数】（令和3年4月1日現在）

医師：62人（臨床研修医を含む）うち女性医師15人

初期臨床研修医：4人

後期臨床研修医（卒後3~5年目）：16人

（ 内科1人、消化器内科1人、内分泌・代謝内科1人、循環器内科2人、
整形外科1人、脳神経外科1人、麻酔科1人、小児科1人、皮膚科1人、
泌尿器科1人、産婦人科3人、眼科1人、耳鼻咽喉科1人、

指導医（卒後7年目以上、指導医講習会受講済み）：30人

内科系6人、内分泌・代謝内科2人、循環器内科2人、腎臓内科2人、
外科系4人、整形外科1人、脳神経外科3人、麻酔科1人、
小児科1人、皮膚科1人、泌尿器科1人、産婦人科1人、放射線診断科1人、
放射線治療科1人、病理診断科1人、救急科2人

看護職：312人

認定看護師：7人

〔救急、感染管理、集中ケア、皮膚・排泄ケア、緩和ケア〕

医療技術職：93人

事務職：52人

【業務実績】（令和2年度）

延べ外来患者数：年間101,850人（1日平均419.1人）

延べ入院患者数：年間80,632人（1日平均220.9人）

救急患者数：年間4,668人

救急車搬入：年間1,743件

年間手術件数：2,631件

その他検査等：内視鏡検査件数（上部下部）3,155件、消化管透視189件、
CT検査11,022件、MRI検査3,946件、DSA血管造影・治療217件、
放射線治療（リニアック）2,948件、病理組織検査3,533件、
細胞診3,585件

分娩件数：年間172件

平均在院日数：11.6日

紹介率：91.7%

健診センター：年間健診受診者3,574人、年間特定業務従事者健診受診者366人

【決算状況】 16年連続黒字決算継続中

平成17年度	4億5,621万円黒字決算	平成18年度	1億3,536万円黒字決算
平成19年度	1億9,100万円黒字決算	平成20年度	1億2,439万円黒字決算
平成21年度	2億5,676万円黒字決算	平成22年度	5億5,810万円黒字決算
平成23年度	3億2,804万円黒字決算	平成24年度	4億5,338万円黒字決算
平成25年度	2億0,499万円黒字決算	平成26年度	4億5,801万円黒字決算
平成27年度	4億9,370万円黒字決算	平成28年度	5億3,321万円黒字決算
平成29年度	3億9,141万円黒字決算	平成30年度	4億1,286万円黒字決算
令和元年度	3億9,070万円黒字決算	令和2年度	2億6,591万円黒字決算

【施設認定など】

施設認定

- 保険医療機関
- 地域がん診療連携拠点病院
- 厚労省外国医師等の臨床修練指定病院
- 救急告示病院
- 日本医療機能評価機構認定病院
- 地域医療支援病院
- 厚労省臨床研修指定病院
- 災害拠点病院
- 開放型病院
- 久留米大学医学部教育関連病院

学会認定

- 日本肝臓学会認定施設
- 日本消化器病学会専門医制度認定施設
- 日本循環器学会循環器専門医研修施設
- 日本整形外科学会専門医研修施設
- 日本脳神経外科学会専門医研修施設
- 日本産科婦人科学会専門医制度専攻医指導施設
- 日本臨床細胞学会施設
- 日本皮膚科学会認定専門医研修施設
- 日本消化器外科学会専門医修練施設
- 日本脈管学会認定研修関連施設
- 日本眼科学会専門医制度研修施設
- 日本手外科学会研修施設
- 日本内科学会認定医制度教育関連病院
- 日本糖尿病学会認定教育施設
- 日本外科学会外科専門医制度修練施設
- 日本形成外科学会教育関連施設
- 日本泌尿器科学会泌尿器科専門医基幹教育施設
- 日本麻酔科学会麻酔科認定病院
- 日本脳卒中学会認定研修教育病院
- 日本高血圧学会専門医認定施設
- 日本透析医学会教育関連施設
- 日本病理学会研修登録施設
- 日本腎臓学会認定教育施設
- 日本救急医学会救急科専門医指定施設

その他

- 身体障害者福祉法指定医療機関
- 自立支援医療機関【更生医療・育成医療】
- 自立支援医療機関【精神通院医療】
- 助産施設指定医療機関

- 生活保護法指定医療機関
- 母体保護法指定医療機関
- 労災保険指定医療機関
- 原爆被爆者指定医療機関
- 国民健康保険診療取扱機関
- 社会保険各法指定医療機関
- 指定養育医療機関（未熟児養育医療）
- 結核指定医療機関
- 産科医療補償制度加入医療機関
- 肝疾患専門医療機関
- 指定難病医療機関
- 指定小児慢性特定疾病医療機関

3. 施設

地域基幹研修病院として、最新の医療設備・医療機器を備えています。

- 救急外来：平成28年3月に拡充し、充実した救急医療ができるようになりました。



- 内視鏡センター：消化管の他、肝・胆・膵疾患と幅広い診断・治療に対応しています。



- 放射線診断・治療機器（320列CT、MRI、アンギオ、RI等）



- 院内保育所：少人数の手厚い保育で、勤務時間に応じて24時間利用可能です。



4. 沿革

昭和12年	大牟田市診療所として開院
昭和25年	大牟田市立病院と改称
昭和54年	24時間365日の救急体制開始
昭和60年	臨床研修病院として厚生大臣指定 久留米大学関連研修病院として正式に臨床研修開始
昭和61年	自治体立優良病院として自治大臣表彰
昭和63年	外国医師等の臨床修練に係る病院として厚生大臣指定
平成 7年	現在地に総工費150億円で新築移転（400床） 大牟田市立総合病院と改称
平成11年	日本医療機能評価機構の病院機能評価 認定（初回） 災害拠点病院に指定
平成15年	「地域がん診療拠点病院」として厚労省指定
平成16年	初期臨床研修病院として全国マッチングでの臨床研修開始 日本医療機能評価機構の病院機能評価 認定更新（2回目） 全科全領域の電子カルテシステム導入 400床を350床に減床（在院期間短縮にて） 代わりに、腎センター増床、外来化学療法センター、健診センター増設 消化器病センター設置、外科、麻酔科外来の移転増設
平成19年	院外処方箋発行に移行
平成20年	「地域がん診療連携拠点病院」として指定更新 急性期病院包括医療DPCに移行 日本医療機能評価機構の病院機能評価 認定更新（3回目）
平成22年4月	「地方独立行政法人大牟田市立病院」となる 一般病棟7:1看護体制開始
平成23年	電子カルテシステム更新 院内託児所開所 医学生・看護学生奨学金貸付金制度創設
平成24年	「地域医療支援病院」として福岡県承認
平成25年	日本医療機能評価機構の病院機能評価 認定更新（4回目）
平成27年	内視鏡センター設置
平成28年	救急外来拡充
平成29年	自治体立優良病院両協議会会長表彰受賞
平成30年	自治体立優良病院総務大臣表彰受賞 全国公立病院連盟会員病院表彰受賞 日本医療機能評価機構の病院機能評価 認定更新（5回目）
令和 2年4月	350床を320床に減床

5. 地域医療への貢献

大牟田市立病院は、地域医療へ貢献するため、様々な活動を行っています。

災害拠点病院としてDMATを編成。熊本地震の際に出動しました。その他、JMATとして北部九州豪雨災害の際にも出動しました。



毎年、緩和ケア研修会を開催しています。



臨床病理カンファレンス（CPC）と臨床がんカンファレンス（CCC）も隔月で開催しています。



患者さん向けの健康教室として市民公開講座も開催されています。



第26回 市立病院主催
市民公開講座

日時:3月5日(土) 午後1時30分~

「あなたの足は大丈夫?」
〜正しい歩行と靴選び〜

講師 春日 麗 医師(当院形成外科部長)

今回の第26回市民公開講座は「あなたの足は大丈夫? ~正しい歩行と靴選び~」をテーマに当院形成外科部長の春日 麗 医師が、これからの健康に大きく関与する正しい歩行や自分に合った靴選びなどについてわかりやすく説明します。また足の痛みの原因が慢性疾患に繋がることがある当院で検定導入された医療機器「SPPP(皮膚圧電圧)検査」のご紹介も行っていきます。講座後には質疑タイムもあり、どこでも参加できますので、履きかたが変わっていることなどは、この機会に尋ねたいはいけませんか?

▼ ところ 大牟田市立病院 2階 エレベーター前 大会議室
▼ 対象者 どなたでも結構です
▼ 受講料 無料
▼ 問合せ 地方独立行政法人 大牟田市立病院 経営企画課(ℓ:53-1061)
ホームページアドレス: <http://www.ghp.omuta.fukuoka.jp>

地域の医療従事者を対象とした**救急蘇生講習会**では、他の医療機関の医療従事者にも研修を行っています。



平成30年6月21日（木）に東京で開催されました「全国自治体病院協議会定時総会」において、当院が「**平成30年度自治体立優良病院総務大臣表彰**」を受賞しました。

この「自治体立優良病院表彰制度」は、全国の自治体病院の経営の健全化への改善努力の成果や地域医療の確保への多大な貢献や取り組みを表彰するもので、「自治体立優良病院両協議会会長表彰」とその上位表彰となる「総務大臣表彰」の2つの賞がありますが、今回の受賞は昨年の「自治体立優良病院両協議会会長表彰」に続く受賞となりました。

受賞の理由としては、当院が地域において救急医療や高度・専門医療を提供している点や、他の医療機関との連携を推進している点が評価されるとともに、経営的にも長年に亘り黒字経営を継続できていることが評価され受賞に至りました。



6. 初期臨床研修について

【当院における初期臨床研修の特徴】

- 有明医療圏で最も多くの診療科を有する急性期病院であり、プライマリ・ケアを豊富に経験できること
- 地域がん診療連携拠点病院、災害拠点病院、地域医療支援病院に認定されており、幅広い研修ができること
- 協力病院（久留米大学病院、米の山病院、筑後市立病院、荒尾市民病院）の初期臨床研修医も当院で研修を行っており情報交換ができること

【研修プログラム】プライマリ・ケアの基本的診療能力（態度・技能・知識）を習得します

1年次：

4 週	8 週	12 週	24 週		
			12 週	8 週	4 週
救急 (麻酔科)	麻酔科 ・週 1 日救急科 (並行研修)	外科 ・後半 8 週は週 1 日救急科 (並行研修) ・週 1 日一般外科外来	内科 ・週 1 日一般内科外来	循環器内科	腎臓内科

※救急科研修は麻酔科 4 週 + 麻酔科研修中は週 1 日並行研修

2年次：

4 週	4 週	4 週	4 週	32 週
地域医療 (共立病院)	精神科 (三池病院)	小児科 ・週 1 日外来	産婦人科	選択科 ・週 1 日救急科 (並行研修)

※救急科研修は選択科研修中に週 1 日 並行研修

【主な院内カンファレンス・レクチャー】

担当医としてプレゼンテーションも行います。

- ① モーニングカンファレンス：週 1 回研修医を対象とした症例カンファレンス
研修医が実際に経験した症例を病歴と身体所見、初期検査を重視して、研修医および指導医が自由に質疑・応答を行う過程で、プライマリ・ケアの診療能力とプレゼンテーション能力向上を目指すカンファレンス。また、他の研修医の経験症例を共有することで将来の自己の实地診療に活かすことを目標とします。
- ② 臨床病理カンファレンス (CPC)：奇数月第 2 火曜日 19 時～
- ③ 臨床がんカンファレンス (CCC)：偶数月第 2 火曜日 19 時～
- ④ 院内ミニレクチャー：各診療科による研修医を対象としたミニレクチャー (年間計 22 回程度)

- ⑤ 大牟田消化器研究会：年 4 回
- ⑥ 大牟田神経アーベント：年 6 回
- ⑦ 大牟田呼吸器カンファレンス：年 4 回
- ⑧ その他：多くの診療科でカンファレンスが開催されています

【院内で資格および受講可能な研修】

- ICLS 研修：年数回実施しており、インストラクターの資格も取得可能
- 緩和ケア研修：初期臨床研修医の間に受講します
- 感染に関する研修：年 2 回以上
- 医療安全研修：年 2 回以上
- 医療倫理研修：年 2 回以上
- 病理解剖について：常勤の病理医の下で、病理解剖時には介助医として参加できます。

【その他】

- **病理解剖**：常勤病理医の下で、介助医として参加。
- **学会参加・発表、病歴要約など**：
院内外での発表を経験し、将来必要となる各種学会専門医取得に必要な病歴要約や学会発表、症例報告、論文作成をサポートします。学会・研究会への参加費用および旅費支給制度もあります。
- **新・専門医制度への対応**
2018 年度より開始された新・専門医制度に対して個々のキャリアプランに応じたサポートを行います。新・専門医制度における 19 の基本領域のうち、13 の基本領域において久留米大学病院および聖マリア病院の連携施設となっています。13 の基本領域では 3 年次から当院で専攻医としての研修も可能です。
- **災害医療への参加**
研修医も JMAT として 2017 年九州北部豪雨災害、2018 年西日本豪雨災害に参加しました。災害拠点病院としての活動に参加できます。
- **筑後地域メディカルラリーへの参加**
医師・看護師・救急救命士による医療チームを組み、事故や災害などの模擬現場において制限時間内にいかに迅速かつ的確に診断と治療を行うことができるかを競う救急技能コンテストへの参加も可能です。
- **チーム医療**
呼吸器チーム、感染対策チーム、栄養サポートチーム、緩和ケアチーム、褥瘡対策チームなどチーム医療も充実しており、より専門的な医療を習得できます。
- **学習環境・生活環境**
学習環境：
*机、インターネット用無線 LAN、棚は全員に完備しています。
*医療情報は院内図書室以外での閲覧以外に、院内 LAN 環境とインターネット環境を利用した電子書籍で多くの洋雑誌や教科書を閲覧できます。

生活環境：

- *更衣室・仮眠室も充実しています。
- *院内保育所を完備しており、結婚・妊娠・出産にも対応できる研修をサポートしています。
- *希望者は病院宿舎（無料駐車場あり）も利用できます。
- *夏季休暇、年次休暇、産休、育休などの休暇を利用して仕事以外の生活も充実できるようサポートしています。
- *大牟田は穏やかな気候と自然環境であり、美味しい食材も豊富です。

➤ 病院見学は随時実施しております。ご希望の際は下記までご連絡ください。

連絡先：0944-53-1061（人事課）

Email：somu@ghp.omuta.fukuoka.jp

➤ 医学生奨学金貸付制度もあります。詳細は下記までご連絡ください。

連絡先：0944-53-1061（人事課）

Email：somu@ghp.omuta.fukuoka.jp

当院で研修を修了した初期臨床研修医：平成16年度～令和2年度

- ◇ 当院プログラムでの2年間初期臨床研修医（基幹型研修医） 計32名
出身大学：久留米大学、鹿児島大学、九州大学、佐賀大学、産業医科大学
山口大学、熊本大学、帝京大学、東海大学、福岡大学、長崎大学
- ◇ 研修協力病院としての初期臨床研修医（協力型研修医） 計151名
久留米大学病院（久留米市）
米の山病院（大牟田市）
筑後市立病院（筑後市）
荒尾市民病院（荒尾市）

- 広々とした医局はインターネット用無線LANが完備され、研修医にも机と本棚が貸与されます。



●モーニングカンファレンス（毎週土曜開催）



●有明地区合同研修医カンファレンス（毎年秋開催）



7. 指導医（プログラム責任者）からのメッセージ

【プログラム責任者】

伊藤 貴彦（救急科部長）



当院は、福岡の最南端の大牟田市に位置し医療圏は有明医療圏と呼ばれ、有明海を囲む熊本県北部から柳川市辺りまでをカバーする場所に位置します。ベット数 320 床の急性期病院です。年間救急車搬送件数は 1900 件前後で緊急手術・緊急処置などを必要とする場合も多くあります。各科専門医の先生を始め若手の先生も多く在籍し、当院のような中核病院の特徴である、「科の垣根」を越えて治療に当たることもあり、そのような環境下での研修は多くの学びがあるのではと思います。

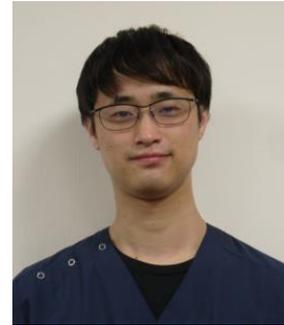
研修医の受け入れは、基幹型研修病院としては毎年 2 名の受け入れですが、協力型研修病院としては、久留米大学病院、筑後市立病院、米の山病院、荒尾市民病院（熊本県）より多数の研修医の受け入れを行っており、各病院の研修医がお互いにより刺激を受けていると思います。また、当院で研修修了後、各科の専門医を目指す先生方も在籍しており、研修中・研修後の相談を行ったり、将来像がイメージしやすい環境かと思います。

初期臨床研修の 2 年間は医師として社会人として先生方の今後に大きく影響する期間と思います。当院で研修を行い、各分野で大きく羽ばたいていただければと思います。

8. 研修医の声

【2年間の初期臨床研修を終えて】

初期臨床研修医（平成31年卒）小田原 健一
早くも初期臨床研修医の生活を終えようとしております。あっという間の2年間だったなと感じています。国家試験を終え、長崎大学を卒業し長年過ごした地元である大牟田に戻って研修医として働くことになりましたが、当時はやっと社会人として働けるといふ喜びもありましたが、上手くやれるのかという不安の方が強かったです。同期の研修医と仲良くなれるかも心配材料の一つでしたが杞憂にすぎず、入職するとまず2週間ほど新入職者オリエンテーションがあり、そこで研修医の同期はもちろん、様々な職種



の同期と交流を深められ、すぐ馴染むことができました。そのオリエンテーションにてコメディカルの仕事に対する研修も受けることができ、日常の業務では知り得ないことを学べたのはすごくいい経験であったと思います。

2年間の研修はすごく充実しており、すごく成長できたと感じています。研修する診療科も希望した診療科を希望通り回ることもでき、すごく充実していました。また当院では週1日、研修医が救急車の初期対応を行うことになっているのですが、1年目の時は先輩の研修医や救急の先生方に指導されながら訳もわからず対応していたことを覚えています。採血や診察の他にもオーダーの方法や本人、家族への説明の仕方など学生の時に学んだ知識とはまた違った知識が必要であり、すごく戸惑いながら研修し、先輩の研修医に追いつけるよう日々新しいことを学んできました。臨床経験の1年の差をすごく思い知らされていました。2年目となり後輩の研修医ができ自分が指導する側になり、昨年していただいたことを後輩に還元できているのか分かりませんが、自分なりに行ってきました。

業務以外のイベントは covid19 の影響で 2年目は残念ながらありませんでしたが、1年目の時にバレーや地域の祭りへの参加など楽しく過ごせました。またどの科の先生方もすごくよくして頂き、診療の際だけに限らず、医局で会った時や仕事終わりの時などもよく声をかけてもらい、すごく楽しく研修させて頂きました。

来年度からは久留米大学の方で引き続き後期研修を行う予定です。

この病院での 2 年間の研修を生かして医師としてさらなる成長ができたかなと思います。最後になりましたが、研修医を担当して下さった紫原先生や伊藤先生をはじめ、市立病院の先生方やスタッフの方々、本当にありがとうございました。

【2年間の初期臨床研修を終えて】

初期臨床研修医（平成 31 年卒）盛満 真人

初期臨床研修の 2 年間はあっという間でした。初めの半年は 3 ヶ月ずつ外科・麻酔科の研修で、一日中手術室にいる日々でした。モニターの音が絶えず耳に入ってくる環境に最初は慣れず、1 日がとても長く感じてこの先を不安に思ったことが懐かしく感じられます。



当院では最初の 2 週間で同期入職の方達（看護部、放射線部、検査部など）とのオリエンテーションがあり、たくさんの仲間ができました。この機会は個人的にとっても助けられました。右も左もわからず病棟にいた最初の頃は同期の存在が大きく、仕事終わりに食事に行き気分転換になる時間も共有できました。その他に院内スタッフでフットサルをしていましたので、リハビリスタッフや薬剤師の方々とも関わることができ、とても働きやすい環境でした。また、2 年間毎週木曜日コンスタントに救急車対応をさせていただくことが出来ました。最初の頃は血液検査項目のオーダーの意味もわからず、時には自分が出したオーダーの内容が不足していることなどいろいろな場面で自分の勉強不足を痛感しました。毎週救急科の先生と研修医で対応することで、最初に比べると徐々に対応することが出来るようになったのではないかと思います。一緒に対応してくれる救急看護師や放射線技師の方達にも助けられました。自分主導で多くの指示を出せるのが一番の理想であることに間違いはありませんが、検査や注射などいろいろ提案をして頂きその都度勉強になりました。

後期研修の 4 月からは月 1 回外勤先の救急車当直があると思うるととても不安ですが、2 年間で学んだことを冷静に行動に移せるように頑張りたいと思います。また、これから一人で診療するにあたって基本的なことではありますが、自分の言葉に自信を持って話すことが大事だとも痛感しました。知識が曖昧なために自信なげに話してしまうと患者にも不安を与えてしまいます。IC をする前に先生からの

質問に自信なさげに答えると「間違っていないからハキハキしなさい」と背中を押されました。当然のことではありますが、研修を終える前に改めて気づくことが出来てよかったことだと思いました。

2年間の研修を終えて久留米大学第一内科神経内科に入局することになりました。ALS や脊髄小脳変性症などの難治性疾患も多数あり、本人だけでなくご家族に対するコミュニケーションも磨いていかなければならないと感じております。大学でしっかりと基本的な神経診察を習得し、色々知識不足の面があるので日々努力していきます。

これからがまた新たなスタートラインとなりますが、2年間の研修を活かし、自分らしく頑張りたいと思います。院長をはじめ、様々な院内スタッフの方々には大変お世話になりました。ありがとうございました。

【1年を振り返って】

初期臨床研修医（令和2年卒）照屋 快斗

大牟田市立病院で研修医として働き始めて1年と2ヶ月が経過しました。

去年4月は学生から社会人となり、周囲の環境の変化に慣れることに必死でした。その頃と比べると少しずつできる仕事も増えてはきましたが、まだまだ勉強すべきことが多く、充実した日々を過ごしています。これまで内科、外科、麻酔科、循環器、腎臓内科、整形外科を回らせていただき、現在は脳神経外科で研修を行っていますが、どの科も非常に充実した研修生活を送ることができています。



大牟田市立病院での研修の魅力として第一に研修医ができる手技の多さが挙げられます。麻酔科では1年目の最初の時期から気管挿管、脊椎麻酔など専門性の高い手技を経験させていただきました。大牟田市立病院は研修医が1学年2人と多くはないため、症例の取り合いなどもなく、回っている科の手技は望めば望むだけ経験できる環境にあります。このように、大学病院などに比して手技に対する垣根が低いことが魅力の一つです。

二つ目の魅力は研修医の指導体制です。大学病院での勤務経験がある先生も多く、どの科の先生も非常に教育熱心かつしっかりしたエビデンスのもと指導してくださるため、毎日充実した研修生活を送ることができます。また医師の数が病院全体で60名程度と大学病院ほど

多くはないため、他科との垣根が低く気軽にコンサルテーションをかけたリ質問したりすることができます。人一人を診察治療する上で決断しなければならないことは小さなことまで考えると無数にあります。もちろん初期臨床研修中は迷ったとき、分からないとき、指導医の先生方の判断を仰ぐことができます。特に研修を始めたばかりのときはありとあらゆることが分からず、些細なこともよく尋ねていました。幸いなことに、大牟田市立病院は総合医局のため、様々な診療科の先生、まだ研修していない診療科の先生でも大変相談しやすい環境でした。気さくな先生が多く、相談によく乗ってくださり、知識・経験が不足している状態での決断の後押しをしていただきました。さらに看護師さんやコメディカルの方々も気軽に研修医の質問に答えてくださり、病院全体で研修医を育てようという雰囲気があります。

病院見学に行くこともなかなか難しい時期だとは思いますが、機会があれば是非大牟田市立病院に来て雰囲気を感じていただけたらなと思います。そして研修医になったら手技がやりたい、雰囲気の良い病院で働きたい、市中病院で多くの症例を見ながら大学病院レベルの高度な医療を学びたいという方はぜひ一緒に働きましょう。皆さんとお会いできることを楽しみにお待ちしております。

【1年を振り返って】

初期臨床研修医（令和2年卒）吉田 夏希

私は国家試験終了後の3月に急遽研修先が決まり、縁あってこの大牟田市立病院での初期臨床研修が始まりました。

引っ越し、4月からの研修とあっという間に新生活が始まったことが記憶に残っています。大牟田市立病院では最初に約2週間の新人オリエンテーションがありました。このおかげで社会人として何も分からない状態でしたが、スムーズに仕事のマナー、他職種との関わり等について学ぶことができました。今年はコロナウイルスの影響もあり、通常より期間を短くした研修でした。そのため他部署の同期入社の方々との交流が少ない点は残念でした。

私は4月から外科を3ヶ月、麻酔科を3ヶ月まわらせて頂きました。これらの科では先生方が積極的に手技を行う機会を与えていただき、できるようになることが少しずつ増え、達成感を感じることがで



きました。最初の半年は毎日あたふたしており、迷惑をかけることも多かったですが、あっという間に毎日が過ぎていきました。

また実際に患者を診察する中でひやっとすることや患者さんの死と向き合い、責任感と命の重さを感じるなど衝撃的なことも多く経験しました。

10月からは腎臓内科、循環器、そして現在消化器内科をまわらせていただいています。私の実力不足のため患者さんを一人で一から診察することはできませんが、日々外来を一緒に診させていただいたり、入院患者さんを一緒に診察させていただいたりしています。

もうすぐ1年目の研修が終わり、2年目の研修が始まろうとしています。今までは2年目の先輩方が教えてくれることが多くありましたが、あと1ヶ月ほどで私たちがその立場になってしまいます。私がまだ知識不足で未熟なことも多いため、今までの先輩方のようにできるか不安ですが、4月よりやってくる研修医の方々とも協力し、ときには不安な事などを解消する助けになればいいなと思います。

あと残りの短い1年次研修の日々を大切に、一人一人の患者さんから学ばせていただきながら2年次も過ごしていきたいです。

【大牟田市立病院での初期臨床研修】

初期臨床研修医（令和3年卒）栗山 紗矢香

研修医生活が始まり、あっという間に3週間が経ちました。初めは新入職員全体のオリエンテーションで様々なことを丁寧に講義していただき、他職種の方との交流もできました。



私は最初に救急科をローテートしています。初日は救急車できた患者さんを目の前にして、今まで国家試験で培った知識では全く太刀打ちできず、呆然と立ち尽くしてしまいました。机上での勉強を実臨床に活かすことの難しさを痛感しました。どんな問診・診察・検査が必要で、どのような結果が出たらどんな対応をするのか全て自分で考えなければなりません。自分のふがいなさに落ち込み、上級医へのコンサルトでも先生方の知識に圧倒されるばかりの毎日です。このように慣れない日々も笑顔で仕事に行けるのは、間違いなく先生方や同期のおかげです。何でも相談してねと声をかけてくださる先生方、悩んだときに話しをきいてくれたり、時には愚痴を言い合ったり、楽しく笑い合ったりしてくれる同期に支えられています。

院長先生や事務の方も研修医を大事に思って、いつも気遣ってくださり安心してしています。また丁寧かつ熱心な上級医の先生方と頼れる先輩の指導や励ましを受け、少しずつではありますが成長していることを実感しています。研修先を大牟田市立病院に決めた一番の理由は雰囲気の良い環境でしたが間違いはなく、恵まれた環境で研修させていただいています。

毎週土曜日には研修医中心の勉強会も行われており、様々な科の専門医同士の活発な意見交換があり、丁寧な指導やアドバイスをもらえるので非常に濃い勉強ができます。また、大牟田市立病院は診療科が揃っており、病院内でほとんどの科の研修を行うことができます。医局が全診療科同じ部屋であるため他科の上級医の先生にも相談しやすく、声をかけやすい環境になっています。以上の点を踏まえて、大牟田市立病院での研修は非常に質の高いものといえると思います。大牟田市立病院での研修を考えている方は是非一度見学にお越しください。

【大牟田市立病院での初期臨床研修】

初期臨床研修医（令和3年卒）中村 文美

学生時代、e レジフェアで大牟田市立病院を知り、病院見学で先生方のあたたかい雰囲気や他の職種の方との関わり方を見てここで研修したいと思いました。働き始めて1ヶ月ほど経ちましたが、この病院を選んで本当によかったと思います。



4月は救急科で学ばせていただいています。大牟田の高齢化率が高いというのを肌で感じています。救急車で運ばれてくる患者さんは高齢の方ばかりで、問診をとろうとしても相手のおっしゃっていることがわからなかったり、診察しようとしても相手が私の言っていることが聞き取れなかったりと思いつ通りにいかないことが多く、話し方や声の大きさなど工夫して話すようになりました。

救急車で搬送される患者さんの数はとても多い訳ではないのですが、その分一人一人の患者さんの診察、治療法について自分たちで考えることができ、指導してくださる先生方から丁寧にフィードバックもしてもらえるので、日々多くのことを学ぶことができます。また4月はたくさんのおリエンテーションがあるのですが、その多くを他職種の方で行うので、すでに同じ時期に入職した同期のほとんど

の方の顔と名前を覚えることができました。チーム医療が大事というのはどの病院でも言われますが、実際にチーム医療を行いやすい環境を整えていただけるのがこの病院の特徴だと思います。

もう一つの特徴として、この病院では毎週木曜日は2年目の先生と一緒に救急を学ぶことができます。他の科を回っていても毎週救急を学ぶことができるので、救急で学んだ知識や手技を定着させることができます。2年間の研修で一つでも多くのことを学んで研修を終えられるように、一日一日を大切にしていこうと思います。



医局全体で、臨床研修医をサポートします！

9. 研修中の行事例

4月には同期入職者とともにオリエンテーション



看護部の研修にも参加します。



4月下旬、診療科での研修開始！

夏には、ビーチバレー大会や夏祭りに参加し、



冬には、キャンドルサービスや互助会のパーティもあります。



学会や研修医フェアなど、院外活動もあります。



そして、めでたく、研修修了！



10. 募集要項と処遇

<募集要項>

応募資格	令和4年度医師免許取得予定者及び平成16年以降に医師免許を取得した者で、令和3年度医師臨床研修マッチングに参加登録している者。 なお、地域枠の学生の方は、当院での臨床研修が認められるかご確認の上、ご応募ください。
募集人数	2名
採用予定日	令和4年4月1日
研修期間	2年間
選考方法	面接、小論文
出願書類	履歴書(市販の書式で可)、成績証明書、共用試験医学系 CBT 個人別成績表(写)、卒業見込証明書または卒業証明書
選考日	令和3年7月下旬～令和3年9月中旬の期間で応募者と調整の上、決定
出願締切日	令和3年8月31日(火)(予定)※消印有効 出願書類送付および問合せ先: 人事課 〒836—8567 福岡県大牟田市宝坂町2丁目19番1号 TEL 0944-53-1061 E-mail somu@ghp.omuta.fukuoka.jp * 病院見学は随時実施しております。遠慮なくご相談ください。

<処遇>

身分	研修医(常勤)
給与	1年次 301,500円(月額税込) 2年次 312,600円(月額税込) * 諸手当別途支給あり 副直手当(15,000円/回)、通勤手当(月額上限55,000円)、 住居手当(月額上限27,000円)、時間外勤務手当
賞与	あり(令和2年度実績 年間 4.15月分) <モデル年収(給与+賞与+副直手当)> 1年次…5,270,000円、2年次…5,760,000円 ※副直手当(月4回で計算した場合)
勤務時間	午前8時30分～午後5時15分 * 指導医の下で、週1回程度の当直(副直)あり
休暇	土曜日、日曜日、祝日、年末年始、その他各種休暇あり(年次有給休暇、夏季休暇、服喪休暇等)
社会保険	各種社会保険加入(福岡県市町村職員共済組合、雇用保険、厚生年金、労災保険)
健康管理	採用時健診、定期健診、歯科健診など
宿舎	あり(3LDK…月額10,500円、シェアハウス…月額3,000円～4,000円、水道光熱費別途、駐車場あり) ※宿舎の空室状況により、入居できない場合は、ご相談させていただきます。
医師賠償責任保険	病院で包括加入
研修支援	・学会、研究会参加: 参加費用および旅費支給制度あり(当院規定による支給) ・資格取得: 当院にてICLSコースおよび緩和ケア研修会受講可能 ・図書室: 蔵書・雑誌タイトル多数、文献検索ツール・電子ジャーナル完備、24時間利用可能 ・研修医各自に机、棚、ロッカーあり ・仮眠室あり ・院内保育所あり

